

2019 年度日本農業経済学会第 1 回常務理事会議事録

日時：2019 年 7 月 20 日（土）13:00～17:00

於：東京大学農学部 1 号館農業・資源経済学会議室

出席：草苺会長、堀田総務担当副会長、山本編集担当副会長、南石企画担当副会長、櫻井国際担当副会長、西川会長補佐常務理事、草野総務担当常務理事、関根学会賞・国内学術交流担当常務理事、原田財務担当常務理事、角田情報担当常務理事、安藤和文誌編集担当常務理事、梅津英文誌編集担当常務理事、栗原企画担当常務理事、井元大会開催校担当常務理事、黒瀧北海道地区担当常務理事、楨平中部地区担当常務理事、多田近畿地区担当常務理事、大呂九州地区担当常務理事、酒井北陸地区担当常務理事、胡四国地区担当常務理事

欠席：木島国際担当常務理事、保永中国地区担当常務理事

事務局：共立（齋藤氏）

開会

- ・草野総務担当常務理事より、22 名中、20 名出席により常務理事会が成立していることの宣言があった。

1. 会長挨拶

- ・草苺会長より挨拶あった。

2. 常務理事会メンバー及び事務局メンバーの紹介

- ・出席者から自己紹介があった。

3. 今年度の主要会議，大会準備等のスケジュールについて

- ・西川会長補佐より、今年度の学会運営スケジュールの検討依頼があった。
 - 1) 東北大学大会：2020 年 3 月 28 日（土）、29 日（日）
 - 2) 9 月 2 日付で大会案内（予告）、10 月末に大会案内詳細を作成する。シンポジウム予稿締切は 2020 年 2 月 9 日（日）
 - 3) 今後の会議等の予定
 - ①第 2 回常務理事会：2 月末から 3 月初めを予定
 - ②2020～21 年度理事の選出依頼：12～1 月頃
 - ③第 2 回幹事会・第 1 回理事会：3 月 27 日（金）
 - ④2020 年度総会：3 月 28 日（土）、新理事会：3 月 28 日（土）
 - ⑤農業経済学関連学会協議会：3 月 29 日

⑥関連学会編集委員長会議：3月29日

4) 学会ホームページ上の委員会名簿更新のため、名簿提供が依頼された。

4. 2020年度東北大学大会について（企画、開催校、連携、総務）

4.1 2019年度東京大学大会報告

【報告事項】

- ・東京大学大会の引継ぎ事項及び収支が報告された。
- ・大学構内では大会実行委員会の許可のない物品の販売が禁じられていることを出版社に周知する必要性、個別報告者受付が設置されたが大会参加費を支払わずに報告する可能性が排除できない点、特別セッションの費用徴収について大会実行委員会に正式に伝えられていなかった点、会計収支報告書の様式を統一すべき点などが指摘された。
- ・大会参加費・懇親会費の支払い方法について、事前に所定の口座に振り込むようにするとアルバイトの学生を減らせる点や、懇親会費の赤字を防げる点が指摘された。
- ・西川会長補佐から、大会への報告申請、報告、投稿、要旨集等について報告があった。

4.2 東北大学大会の準備状況

【報告事項】

- ・東北大学大会の準備状況について報告があった。
- ・日程と会場は以下の通り。2020年3月27日（金）諸会議：青葉山コモンズ（青葉山キャンパス）、28日（土）合同シンポジウム：萩ホール（川内キャンパス）、懇親会：キッチンテラス Couleur（川内キャンパス）、29日（日）個別報告、特別セッション、ミニシンポジウム（仮）、国際シンポジウム（仮）、関連学会協議会等：青葉山コモンズ。
- ・大会を東北大学大学院農学研究科と共催するよう提案があった。
- ・物品販売については、シンポジウム会場では可能で、販売による賃借料の増額は無いと報告された。青葉山コモンズでは、営利を目的としないという条件があると報告された。
- ・参加費・懇親会費を事前支払いとするかどうかについては、開催校ではなく、学会の方針として決定する方が好ましいとする指摘があった。
- ・大会に乳幼児等が同行する場合、川内の保育園に依頼するか、会場でシッターに依頼するかを検討する必要があると報告された。

4.3 企画委員会報告

【審議事項】

- ・現在、特別セッションの申し込み時には個別報告原稿の提出を義務づけているが、行政官や実務家が報告のみを行う（報告論文へ投稿しない）場合には、個別報告原稿をプレゼンファイル等に代えることができるようにすると提案され、承認された。なお、研究者の場合は原稿を提出する義務が残り、報告者の会員要件は除外されない。

- ・「大会開催に関する申し合わせ」を内規とする案が示され、承認された。

【報告事項】

- ・次期の大会開催校について、2021年度は茨城大学、2022年度は龍谷大学から開催を内諾済みと報告された。
- ・大会関連スケジュールと、大会シンポジウム（合同シンポ、ミニシンポ、国際シンポ）の企画について報告があった。
- ・酒井担当から、大会シンポを昨年度と同様に合同シンポとして開催することへの懸念が指摘された。
- ・酒井担当から、連携委員会が担当するミニシンポの企画は企画委員会が主体となっていくべきではないかと指摘された。草薙会長から、学会の社会的なプレゼンスを高めるため農水省との連携を強める、また、従来のやり方を改善しシンポの継続性を高めるという意味で、連携委員会がシンポを企画することとなっていると説明があった。黒瀧担当から、テーマごとに学会の見方を担保しながら連携するべきと指摘された。草薙会長の同意があった。

4.4 連携委員会報告

【審議事項】

- ・西川会長補佐常務理事を連携委員会委員とする提案があり、承認された。
- ・大会1日目に、前回と同様の合同シンポジウムを開催することが提案され、承認された。
- ・大会2日目に、農水省の関連部局による情報提供を主な内容とした小規模なシンポジウムを開催することが提案され、承認された。

5. 各担当の業務について（担当副会長または常務理事より報告と討議）

5.1 総務

【審議事項】

- ・「次期総務担当ローテーションの考え方について（案）」が提案され、本方針で進めていくことが承認された。
- ・個別報告申請システムの導入についての説明があり、引き続き導入の検討を進めていくことが承認された。
 - ・安藤担当から、システム導入により抑制される費用について質問があり、労務は大幅に軽減されるが、直接的な費用抑制は無いと草野担当から回答された。堀田担当から、J-STAGE 等も含めた総合的な財務の検討を進めていきたいと回答された。
- ・東北大学大会の、東北大学大学院農学研究科との共催が承認された。
- ・草薙会長から、日韓学術交流協定について、日韓いずれかに所属する会員がそれぞれの学会が開催する大会に参加し、会費不要で個別報告と投稿ができるよう韓国側から要請が

あったと報告された。草薙会長から人数枠（上限）を設けて実施する方向で国際委員会と調整する方針が示され、このような方向で進めることが承認された。

- ・東北大学大会の大会参加費・懇親会費を事前振込とするかどうかは、事前振込となっても現金の手渡しはなくなるだけで、受付による本人確認の負担は変わらない、当日現金による受付希望者に対応する必要がある等の理由から、井元担当が堀田担当と個別に検討することとなった。

【報告事項】

- ・西川会長補佐から、『農業経済学辞典』の出版契約の概要が説明された。
- ・櫻井担当から、著作権については学会に権限を付与することとなっているが、非会員の執筆者の場合どうするか質問があり、確認することとなった。
- ・学生会員資格単年度化に伴う学生会員数の変化について説明があった。
- ・東京大学大会の引継ぎ事項として提案された大会参加費の事前振り込みに関連して、参加費の事前振込を行った 2011 年度早稲田大会の実績が報告された。
- ・堀田担当から、2015 年度以降、報告論文と **Research Letters** の間で採択率の格差が顕著になっているため、格差是正及び投稿数確保のため対応を検討すべきと報告された。
- ・堀田担当から、役員業務の引継ぎが不十分な委員会があるため、対応を検討すべきと報告された。
- ・櫻井担当等から、要旨集の電子化により、自動受付システムの費用を捻出できないか提案があった。本提案に対し、賛成・反対双方の意見が出され、今後検討することとなった。
- ・井元担当から、自動受付システムにかかる維持費について質問があり、システムを提供する事務局に確認することとなった。

5.1.1 情報

【報告事項】

- ・角田情報担当より、和文誌 89 巻、90 巻、91 巻（1～2 号）及び英文誌 21 巻の **J-STAGE** 搭載が完了したことが報告された。
- ・堀田担当等から、他業者の見積もりを取る、古い論文はテキスト化しないなどの方法により、**J-STAGE** の費用を引き下げる必要性が指摘された。共立が **J-STAGE** の掲載と検証の費用について、去年 1 年分（4～5 冊）の見積もりを取るることとなった。

5.1.2 財務

【審議事項】

- ・原田担当から、会計監査での指摘事項への対応、特別セッションの科目の変更、旅費内規（旅費申告書）の改訂について説明があり、承認された。

【報告事項】

- ・原田担当から、財務動向、財務体質の課題について報告があった。

5.1.3 学会賞・国内学術交流

【報告事項】

- ・関根担当より、学術賞・奨励賞の募集・選考スケジュールの説明があった。
- ・農業経済学関連学会協議会、日本農学会シンポジウムへの会員派遣、日本経済学会連合評議委員会への出席と『英文年報』への執筆等について報告があった。
- ・日本農学進歩賞候補者推薦について、現在のところ推薦無しとする報告があった。

5.2 編集（和文誌，英文誌）

【報告事項】

- ・JJAE/Research Letters の締め切りが延長された点について説明があった。再発防止策として、より入念なチェックと複数の他担当者に対する事前回覧が提案された。
- ・Research Letters の投稿数が過去最高になった点が説明された。締め切りを長くすることは、論文投稿数の増加につながっている可能性が示唆された。
- ・「農業経済研究」及び「JJER/JJAE」実績について説明があった。和文誌報告論文は投稿数が例年よりも少なく、JJAE は項数が多くなった点が報告された。JJAE は現在年1回印刷だが、将来的には項数が多くなった場合などに、複数回印刷する可能性が指摘された。

5.3 国際

【審議事項】

- ・櫻井担当より、国際委員会委員（日韓関係担当）の交代について報告があり、承認された。
- ・国際委員会と企画委員会で共同して、2023 年または 2023 年度中に開催予定のアジア農経学会の実行委員会を今年度中に立ち上げる旨報告があり、承認された。
 - ・アジア農経学会を日本農経学会大会と同時開催とするため、2023 年度大会の予定校と検討を開始する。見積もり等は実行委員会立ち上げ後に検討する。
- ・アジア農経学会の機運を盛り上げるため、国際シンポにアジア諸国の研究者を呼び、アジア農経学会までに何度か開催することが提案され、承認された。
- ・草苺会長より、国際委員会と時限的に会長を含む日韓シンポの検討委員会（共同研究推進検討委員会）を設置したい旨説明され、承認された。

6. 事業委託の状況および契約書の紹介

- ・事業委託の状況及び契約書の紹介があった。

閉会

以上。

草野（総務担当常務理事）・西川（会長補佐常務理事）作成